

## 2. 大学の機関別認証評価<sup>\*1</sup>

河野 通方<sup>\*2</sup>・林 隆之<sup>\*2</sup>

2002年に学校教育法が改正され、それにより認証評価制度が2004年4月1日から施行された。そこには「大学は、その教育研究水準の向上に資するため、文部科学大臣の定めるところにより、当該大学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。大学は、前項の措置に加え、当該大学の教育研究等の総合的な状況について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者（認証評価機関）による評価（認証評価）を受けるものとする。」とある。すなわち、大学を認証する制度ではなく、大臣に認証された評価機関が実施する評価を大学が受けなければならないというのが、認証評価制度である。学校教育法施行令には政令で定める期間として、大学では7年以内ごと、専門職大学院では5年以内ごとと定められている<sup>1)</sup>。認証評価機関はあらかじめ、中央教育審議会の審査を経て文部科学大臣の認証を受ける必要があり、現在までに大学および短期大学の認証評価機関は表<sup>2-5)</sup>のとおりである。ここに記述した内容は、ウェブサイトに掲載されているものの一部であるので、詳細はそちらを参照して頂きたい。高等専門学校については現在のところ大学評価・学位授与機構が唯一の認証評価機関である。ただし、本稿においては、本書の主旨から大学、短期大学（以下大学等）について述べ、専門職大学院および高等専門学校の認証評価については触れないこととする。

認証評価は、大学等が認証評価機関を選択し、

その評価機関により制定されている評価基準に基づいて、大学の内部で自己評価を行うところから開始される。自己評価は報告書としてまとめられ、認証評価機関に提出される。この認証評価機関は大学等とは独立した組織であるので、これによる評価は第三者評価と呼ばれる<sup>6)</sup>。提出された報告書は、別表の評価体制に示す委員会等で書面審査される。このとき、書面からでは確かめられない事項やその確認のために訪問調査（実地視察）が行われる。訪問調査では、例えば対象大学の関係者（責任者）との面談や資料・データの収集を行うとともに、実際の教育研究活動等の状況を把握するため、学生、卒業（修了）生等との面談や教育現場の視察等を行う<sup>7)</sup>。これらをもとに、評価結果（案）が作成される。評価結果（案）に対して対象大学から意見（異義）がある場合にも対応できるようになっている。このようにして作成された評価結果は、対象大学に通知され、同時に文部科学大臣に報告される。また、印刷物やウェブサイトへの掲載などによって社会に公表される。基準を満たした大学等には認定証等が交付される。

認証評価の目的は別表に示されているとおりであり、大学の教育研究の質または水準の保証と向上、評価結果に基づく大学の改善、社会への公表、大学の特性（個性）の尊重と自律的な発展が主旨となっている。また、認証評価の機能として、大学等の教育研究に関する事項の情報提供機能、規制緩和に伴う質の低下の事後チェック機能、機関レベルのPDCAサイクルの確立による改善機能<sup>8)</sup>、などがある。

最後に、認証評価の第1サイクル（第1期）が近々終了し、次のサイクルに入っていくにあたり、評価結果に基づいた内部質保証システムの構

<sup>\*1</sup> Certified Evaluation and Accreditation of Universities

<sup>\*2</sup> Michikata KOUNO/Takayuki HAYASHI 大学評価・学位授与機構



築を進めること<sup>3)</sup>などが要検討事項としてあげられる。

## ■文 献

- 1) 独立行政法人大学評価・学位授与機構編集, 川口昭彦, わかりやすい大学評価の技法, 大学評価文化の展開, きょうせい, 2006, p.78.
- 2) 独立行政法人大学評価・学位授与機構ウェブサイト, <http://www.niad.ac.jp/>
- 3) 財団法人大学基準協会ウェブサイト, <http://www.juaa.or.jp/>
- 4) 財団法人日本高等教育評価機構ウェブサイト, <http://www.jihe.or.jp/>
- 5) 財団法人短期大学基準協会ウェブサイト, <http://www.jaca.or.jp/>
- 6) 文献1), p.27.
- 7) 早田幸正, 航戸高樹, よくわかる大学の認証評価, エイデル研究所, 2007, p.72
- 8) 羽田貴史, 大学改革における評価の機能と役割, 京都大学高等教育研究, 第12号(2006) p.120